

# 第7次総合計画（素案）の審議経過について

## I 第4回総合計画審議会の質疑応答について

別紙のとおり

## II 第5～7回総合計画審議会（部会）について

### 1. 部会構成

第1部会	<p>部会長 石光真委員</p> <p>部会員 金澤啓一委員、小林正一委員、小山豊委員、佐藤雅美委員、佐藤芳賢委員、山崎庸貴委員、湯野尻強委員、堀美千子オブザーバー</p>
第2部会	<p>部会長 澁川恵男委員</p> <p>部会員 折笠哲也委員、君佳明委員、諏訪秀一委員、関千尋委員、日高光昭委員、森正孝委員、吉原秀一委員、鈴木静オブザーバー、新井田素子オブザーバー</p>

### 2. 審議事項

	第1部会	第2部会
第5回 5/18	<p>■まちづくり①</p> <p>23. 低炭素・循環型社会</p> <p>24. 自然環境・生活環境</p> <p>26. 生活・安全</p> <p>27. 地域防災</p> <p>32. 公共交通</p> <p>33. 情報</p> <p>36. 地域自治・コミュニティ</p> <p>38. 大学等との連携</p>	<p>■しごとづくり</p> <p>10. 食料・農業・農村</p> <p>11. 森林・林業</p> <p>12. 中小企業</p> <p>13. 企業立地・産業創出</p> <p>14. 雇用・労働</p> <p>15. 観光</p> <p>16. 中心市街地・商業地域</p>
第6回 6/1	<p>■まちづくり②</p> <p>24. 公園・緑地</p> <p>27. 治水</p> <p>28. 雪対策</p> <p>29. 都市づくり</p> <p>30. 道路橋梁</p> <p>33. 上下水道</p> <p>34. 住宅・住環境</p> <p>35. 景観</p>	<p>■ひとづくり</p> <p>1. 子ども・子育て</p> <p>2. 学校教育</p> <p>3. 子どもへの個別支援</p> <p>4. 地域による子ども育成</p> <p>5. 生涯学習</p> <p>6. スポーツ</p> <p>7. 歴史・文化</p>

<p>第7回 6/22</p>	<p>■きょうどう</p> <p>8. 男女共同参画 9. 社会参加 21. ユニバーサルデザイン 37. 交流・移住 39. まちの拠点 40. 公共施設 41. 行政運営 42. 財政基盤</p>	<p>■ふくし</p> <p>17. 健康・医療 18. 地域福祉 19. 高齢者福祉 20. 障がい者福祉</p>
---------------------	--	--

### 3. 開催結果（概要）

#### (1) 第5回 第1部会 まちづくり①

- 身近な公共施設に行けば、何らかの対応ができるような仕組みづくりを求める意見があり、総じて、市民と行政の距離が近いまちづくり、地域のまちづくりを地域で決めることができる仕組みづくりが主要な意見・論点となった。

#### (2) 第5回 第2部会 しごとづくり

- 農産物や修学旅行における風評被害対策をしっかりと行うことを求める意見があり、総じて、農業、商工業、観光業の各分野における風評対策をしっかりと行っていくことが主要な意見・論点となった。

#### (3) 第6回 第1部会 まちづくり②

- 緑化や除雪において、市民、事業者、行政の協働とその実現のための仕組みづくりを求める意見があり、総じて、公共施設やサービスの拡大が難しいなかであって、市民協働による快適なまちづくりを進めていくことが主要な意見・論点となった。

#### (4) 第6回 第2部会 ひとづくり

- 医療費無料や待機児童ゼロを評価する意見がある一方、潜在的待機児童の解消や遠距離通学の支援、障がいのある子どもへの支援を求める意見があり、総じて、子育て支援の更なる充実と、置かれた環境の違いや障がいの有無に関わらず、全ての子どもが学ぶことができる環境づくりが主要な意見・論点となった。

#### (5) 第7回 第1部会 きょうどう

- 有利であっても借金でしかない合併特例債の活用を前提にした整備を位置付けるのではなく、公共施設等総合管理計画に基づく適正管理や、広域行政、行政資源の適切な配分についての意見があり、総じて、時代の変化にあわせた健全な行財政運営を進めていくことが主要な意見・論点となった。

(6) 第7回 第2部会 ふくし

- 団塊の世代が後期高齢者となるいわゆる 2025 年問題だけでなく、更に、それ以降は貯蓄が少ない年齢層が後期高齢者になるなど、高齢化問題は深刻化し続けると見込まれるが、現在の社会保障制度は、今の時代にあっておらず抜本的な見直しが必要との意見があるなど、総じて、高齢者増加に対応した福祉の見直し、社会参画の仕組みづくりを進めていくことが主要な意見・論点となった。